

---

■ さろん | Mail News 2018/1/15 | #107 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

---

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

---

---

====Vol.107 2018年1月15日(月)=====

さ | ろ | ん |

— | — | —

M | a | i | l | N | e | w | s |

— | — | — | — | — | — | — | —

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

---

---

INDEX

- | 【お知らせ】 (1/29) 談話室ゆるみ Café / テーマ : 「(当日決定)」
  - | 【1】 コラム / エッセイ
    - ◇ 『長く続けるには ~断簡』
    - ◇ 『浮いていこう宣言。』
  - | 【ご案内】 「さろんラボ」 企画を募集しています
  - | 【2】 コトバをハーバリウムする
  - | 【3】 さろんアーカイブの遊歩道
  - | 編集後記
- 

CONTENTS

---

---

【お知らせ】

(1/29) 談話室ゆるみ Café  
テーマ : 「(当日決定)」

---

通称『ゆるカフェ』。ゆるやかに営業中です。

今月もテーマは当日募集します。おしゃべりしたいテーマをぜひ持ってきてくださいね。

それもいいね、そっちも面白そうだね、とウロウロしながら、「いま話したいこと」をほりさげてみましょう。

1月29日(月) 19:15 オープンです。

今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで ※最少挙行人数3名

1月29日(月) 19:15 - 21:30頃

渋谷近辺の喫茶店(申込者にご案内)

参加費100円(別途、注文した飲食費実費をお支払いください)

お申込み: [salontetsugaku@gmail.com](mailto:salontetsugaku@gmail.com)

(幹事: せりざわ)

---

## 【1】コラム/エッセイ

▽【長く続けるには ~断簡】 一生

▽【浮いていこう宣言】 セリンジャー

---

▽【長く続けるには ~断簡】 一生

武道・芸道について調べる。剣道や茶道等の武道・芸道を修業によって究めていく段階を示す言葉に守破離がある\*1。「守」は、師や流派の教え、型、技を忠実に守り、確実に身につける段階。「破」は、他の師や流派の教えについても考え、良いものを取り入れ、心技を発展させる段階。「離」は、一つの流派から離れ、独自の新しいものを生み出して確立させる段階のことである。

文化財の製作について聴く。九谷焼で独自の作風を確立し、「彩釉磁器」で人間国宝に認定された三代徳田八十吉氏は次のように語ったとされる\*2。「伝統とは、ただ単に過去の名作を模倣することではなく、果敢に新しいものにチャレンジし作り続けることである。だから、いつも新しいものにチャレンジし、それは…苦悩、焦燥、孤独を友としているのかもしれない。辛い、でも、産みの喜びもある」。

哲学カフェは武道・芸道でも文化財製作でもない。だが、長く続けるという点から対比させれば通じるものがないか。進行の型、技を無理に再現したり、過去の対話を倣ってもうまくいかない。参加者は一部入れ替わり、場の雰囲気が変わる場合が多いからである。反面、哲学カフェは過去の対話になかった新しい主張に向き合い、取り組む。これは修業や伝統継承の段階で挙げた「新しいもの」にどこか通じる。哲学カフェには長く続ける仕掛けが組み込まれているのかもしれない。

今年向き合う新しい主張が楽しみである。

\*1：守破離：コトバンク

<https://kotobank.jp/word/%E5%AE%88%E7%A0%B4%E9%9B%A2-689006>

\*2：NHK Eテレ：美の壺「九谷焼～色をめぐる冒険～」

三代の娘、四代徳田八十吉氏による三代の生前の言葉として紹介

▽【浮いていこう宣言。】 セリンジャー

年が明けて二週間、2018年も本格的に「始まった」というのを感じている頃ではないでしょうか。同時に、年頭に当たっての抱負や意気込みもまだ覚えている頃だとも思います。年始にあたってみなさんはどんなことを考えましたか？

明後日1月17日は個人的なヒーローであり、ロールモデルでもある坂本龍一のバースデーです。御年66歳。毎年この日は、日の出と共に起床するとすぐに窓を開けて換気をし、沐浴をしてから新しい服に着替え、ステレオ前で正座をしながらその時点で最新のアルバムを全編聴き通します。音の波に全身を浸す小一時間、彼が歩いてきた道のりを回想し、発表段階で最新の作品の中から、リアルタイムの彼へと繋がる部分を考えたりします。現時点の彼がどこを見て、何を考え、次の一手として何をしようとしているのかを注意深く探ります（そうして次の新作で答え合わせをしたりします）。それが終わると今度は一張羅に着替え、熱い珈琲を淹れてから机の上に新しいノートと鉛筆を用意します。脳内に漂っているさまざまなイメージに言葉や形を与え、消えないうちに紙に定着させます。あらかたのスケッチが終わったらじっくりと見返し、こんどは少ししっかりした文章で記述しなおします。坂本龍一を観て感じたこと、考えたことから、それを受けてじぶんがやってみたいこと、採り入れたいことをメモしておきます。ロールモデルとはいっても結局は他人なので、真似しきれないこと（例えば容姿）や、価値観のズレはあったりします。でも一旦は、なりきる。演じきろうとする姿勢が肝要です。重ね合わせようとするからこそ、彼此の違いがハッキリと見えてきます。その違っている部分が結局は“私自身”ということになるのでしょうか、じぶんくらいの信者になってくるとこの差異の部分を、まだ演じきれてない部分＝未熟で不完全で至らないところ、という風に反省的に受け止めるようきちんと調教ができています。なので毎年この日は、未熟な自己が成熟したお手本と向き合い、現状からのアップデートを企図する日になっています（もちろん信じるも信じないも自由です）。

でもなんで坂本龍一なんでしょう。個人的には「カッコいいから」のひと言に尽きるのですが、例えば彼のこんな風な腰の座った発言にそれを感じたりします。『「非戦」はまださ、始まったばかりの考え方だと思う。その芽は今までの歴史の中にもあるわけだけれど、これから鍛えてゆく。鍛えるって言っても、闘争するんじゃないって、言説化していったさ』（坂本龍一・後藤繁雄『skmt 坂本龍一とは誰か』（ちくま文庫、2015））。——カッコよさの一端をこれで説明できたと仮定しても、もう少し突っ込むと「なぜロールモデルを求めるのか」という疑問が出てきます。なぜロールモデ

ル（手本や先達）を必要とするのか？

これもひと言でいうと「失敗したくないから」ということになります。失敗はしたくない。みっともないことは悪だ。——そういう感覚がじぶんはすごく強いのですが、どうも世間的にはその感覚って多数派とも限らないみたいですね。「じぶんが勝手にやり始めることだから、良い報告ができるまではひとりで頑張らないと」とか「(迷惑をかけたくない気持ちからの) 事後報告癖」ってじぶんとしてはもの凄く馴染みのある感覚なんですけど、どうも全員が持っている感覚ではないようです。だから「本当に必要とし合う関係って、あなたが未完成でも、あなたが完成品でも、そこに向き合う人ってたいしてそこは重要視しません」なんていうのを目にしたりと雷に打たれたみたいにびっくりしたりします。「ありのままでもいいんだよ」。そういう穏やかで優しい世界では、失敗しないためのロールモデルには、いったい全体どういう意味があるんだろう？——そんな混乱もやってきます。

\*

そういうわけで話を冒頭に戻せば、個人的な今年の抱負は、じぶんのロールモデルはじぶん自身、です。「なにその青春っぽい感じ…」っていう冷ややかな声が聞こえてきそうですが、何かに寄せたり、なりきることを楽しむのではなく、じぶん自身でいることを楽しむ。じぶん自身にとって魅力的なじぶんであるべく精進をする。そんな風なことをおもっています。

ものの本にこんな風を書いてありました。「常識的に行くところは常識的に行く。でも今年の私は非常識に行くところはとことん非常識に行く」。非常識と言っても、誰かに迷惑をかけるとかそういう意味ではないですよ。世間的な、あるいは旧来のやり方にとらわれずに、じぶんの好きなことをやっていく。それくらいのニュアンス。その為の“浮いていこう宣言”です。

奇しくも、坂本龍一の最近作は『async』（2017）っていうタイトルなんです。async=非同期。浮いていく僕にはピッタリのコンセプトですよ。明後日の彼のバースデイには、同期するためではなく非同期していくためにこの作品をかけてみましょう。なるべく無心で。2018年は、じぶんの本音をいつもちゃんと捕まえておくために耳を澄ませたいとおもいます。

---

## 【ご案内】

---

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

---

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【大村】

「さろんラボ」、常設しています。このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

さろんの参加者の手で、以下の2つのイベントがうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ・テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：大村)

-----  
— 【2】 —

コトバをハーバリウムする #27 (や)

-----  
本のコトバから  
-----

「初めから持っていなかった物を、どうしてそんなにほしがったり するの？」

——エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』

「青いバラがまもなくできるかもしれないと耳にしたときに覚えた違和感とは、私たちがこの両腕を思い切り伸ばしてつかみたいと願っていたものが、本当に青いバラだったのかという「問い」だったのではないだろうか。」

——最相葉月『青いバラ』

-----  
歌のコトバから  
-----

君が待つのは 世界の良い子の手紙  
君の暖炉の火を守る人はいない  
永久凍土の底に愛がある  
玩具と引き替えに 何を貰う？

——キリンジ『千年 紀末に降る雪は』 (作詞：堀込高樹)

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第29回

テーマ： 「なぜいじめは起きるのか？」

開催日： 2013年1月19日

[http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/salon\\_giji\\_29.pdf](http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/02/salon_giji_29.pdf)

山田詠美は『風葬の教室』に於いて小学校でのいじめの問題を取り上げた。転校生の少女が人気のある男性体育教師から好感を持たれたことをきっかけにカースト上位の同級生達からの執拗ないじめが始まる。彼女はいじめの原因を下記のように分析する。

「誰もが、何故、私をのけ者にし、ただ教室に座っているだけの私に不快感を与えようとするのか、本当のところ、解ってなどいないのです。ただ痒いような気がする。皆が感じていたのは、これだけだと思います。そして、それを誰かが引っ掻く。すると、本当の痒さが生まれる。だから、また引っ掻く。すると、もうたまらなくなって一斉に爪を立てる。」

人間は往々にして非合理的な生き物である。人間が爪先から頭のとっぺんまで合理的に生まれついているのなら合理性が称揚されることもない。「何となく」「ノリ」で行動を選択して平然としているのが人間の長所であり、短所でもある。

前述の少女は自らをいじめる人間一人一人を心の中で殺して野晒しにすることでいじめに打ち勝った。しかしこんな芸当ができる子供は現実には極めて少ないだろう。いじめが非合理的な空気感により発生するならば、空気の外側からの助け舟が必要不可欠である。

#### 編集後記

メールニュース第107号をお届けします。

こんにちはフクロウです。

先日あった新年スタッフミーティングでみんなで明治神宮に参拝してきました。

毎年恒例の行事になっているんですが、今年は三が日から日が経っていたので、境内に入ってから出てくるまでがあっという間でした。大鳥居をくぐってから本殿までの（混雑もあっての）あの長い時間が、「さぁお参りするぞー」という気分を高めるのにひと役買ってるのが体感できました。

お参りもミーティングも済んで、本年初回のさろん哲学（哲学カフェ）がいよいよ今週土曜の開催です。テーマは「<品>をどう感じるのか？」。

品を「感じる」機会はあるにしても、ことばにして「考え」たり「掘下げ」たりすることってあんまりないような…。どんな対話の時間になるかたのしみです。

冬本番の睦月ですが、インフルや風邪に気をつけて健やかにまいりましょう。ホウ。

それではまた次号でお会いしましょう。ホウ。

編集：（フクロウ）

さろん | Mail News 2018/1/15

⇒次号 (2月1日発行予定)

---

---

さろん Mail News 第107号 / 2018年1月15日発行【読み物号】

編集・発行：さろん

salontetsugaku@gmail.com

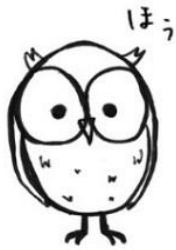
<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

---

- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。  
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
- ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。  
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
- ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
- ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
- ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
  - 「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
  - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
  - 「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>
  - 「あるばか学校」 blog <http://alpacagakkou.blog.fc2.com/>



"copyright (c) 2011-2018 さろん. All rights reserved."

---